

山形県民教連通信

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

2020.08.29 No.69

Contents

巻頭言「コロナ後の教育を創造しよう！」	... 1
コロナ禍によって顕在化したこと。そして...	... 2
特集 コロナ禍での子どもたち(中学校)	... 4
学童保育の子どもたち	... 5
オンライン空間に仲間生まれ	... 5
実践 コロナにまけないサイレント集団遊び	... 7
サークル紹介 県生研北村山サークル	... 11
随想「沖縄で暮らす50日間」屈辱から誇りへ	... 12

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信
 <発行人> 山形県民教連事務局
 〒990-0044 山形市木の実町12-37
 県教組山形地区支部内
 TEL/FAX 023-631-2112/2126
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyousei.gr.jp
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

巻頭言

コロナ後の教育を
創造しよう！
デジタルと
アナログの両立を

山形県民教連会長
設楽 隆雄



今年、初めて落花生を植えました。黄色の小さな花が咲きました。栽培の本ではこの後、子房柄が土に潜っていくと書いてありましたが、なかなか入っていきません。ですが、先日紫色の棒のようなものが土に入っているのを見つけました。本の通りだ！と、うれしくなりました。「初めて知る」「知っていたことが本当だと分かる」って楽しいですね。きっと誰もがそうなのではないでしょうか。大人でも、子どもでも。

現在、世界中がコロナ感染症の拡大を防ぐために「自粛」「ソーシャル(本当はフィジカル)ディスタンス」が叫ばれ、移動したり、人と人とが近づいたりする活動ができなくなっています。

そのために、今年度山形県民教連が主管となって開催される予定だった東北民教研天童集会も残念ながら延期せざるを得ませんでした。本集会が始まって以来、初の中止となりました。

でも、私は次の天童集会が楽しみです。なぜかという、生活や教育がコロナ感染症によって変わらざるを得ない状況に追い込まれ、コロナ後の教育をつくるにあたって「変わらざるをえないこと、変えてはいけないこと」などを分析し、これからの教育づくりを提示していかなければならないと考えるからです。

2021天童集会はとても大事な集会となります。ぜひ、会員の皆様のお力をお貸しください。

さてコロナ感染症によっていろいろなことが明らかになりました。皆さんも報道を見てご存じだと思います。私なりに簡単にまとめてみましたので、本号の「コロナ禍によって顕在化したこと。そして、これから目指さなければならないこと」をご覧ください。

最近、「オンライン授業」「ZOOM」などの言葉をよく聞きます。私は、この対面ではなく画面で進める授業が、政府の進めている教育改革「ソサエティ5.0」を推進しAIによる教育を助長していくのではないかと危惧しています。山形市でも、一人1台のタブレット設置に予算をつけている状況です。

「オンライン」「リモート」はすばらしいシステムだと思います。先日、孫が誕生し、ラインの動画通信で対面しました。コロナ禍でも画面を通して会うことができたのです。

でも、オンラインでやる授業は、本当の学力がつくのかなあ、楽しいのかなあと疑問に思います。

今年、8月8日(土)～10日(月)に開催予定だった

第69回東北民教研天童集会は、残念ながら中止となりました。

来年、引き続き山形県民教連が主管して開催する予定です。

2021年の天童集会をみんなでつくりあげましょう！

私の推測ですが、私だったら「45分間いつも画面を見ていなくてはいけないのかな」「わからない時に隣の人にそっと聞けないのかな」「みんなの表情が見たいなあ」なんて思ってしまいそうです。なんかつらい授業になりそうです。(きっと先生方はそんなふうにはしないようにすると思いますが。)授業をする教師も、受ける子どもたちも疲弊しそうです。

仲間の息遣いを感じながら、考えを出し合い、学び合っていく授業をオンラインでもできるといいなあと思います。

私の所属している全国生活指導研究協議会(全生研)も、コロナのために全国大会が延期になり、代わってZOOMによる基調学習会や分科会が開かれました。

パソコンに疎く、不安な私は参加しませんが、参加した皆さんは学べた、と喜んでいました。

でも、私は、全国大会でたくさんの参加者の熱い息遣いと情熱を肌で感じながら、みんなの前で挙手してドキドキしながら発言した時の充実感を今でも覚えています。

「オンライン」と「体験」。これからはどちらのいいところをも活用していける教育をつくっていかなければなりません。

コロナ禍での子どもたちのケアと学び、感染防止のために、少人数学級の実現は急務です。山形県民教連は、先日の事務局会で、市民団体が立ち上げた『新型コロナから県民のいのちと暮らしを守るやまがた共同アクション』に参加することを決めました。全国でいち早く進め脚光を浴びた「さんさん」プラン。しかし、その後は停滞してしまいました。

今回、多くの市民の皆様、様々な団体と一緒にあって少人数学級の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

集会の参加や署名などお願いすることもあると思います。よろしくをお願いします。

なかなかコロナ感染症の拡大がおさまりません。でも「明けない夜はありません」

この期間に、スマホや携帯、手紙などを利用して会員の方々と連絡を取り合ってみませんか。きっと、皆さん、声を聞きたくて話したくて待っているかもしれません。デジタルだけでなくアナログもいいですよ。きっと長い話になるかもしれませんね。

コロナ禍によって顕在化したこと。そして、
これから目指さなければならないこと。

山形県民教連会長 設楽 隆雄

コロナ禍によってこれまで気づかなかった社会や政治の問題が顕在化した。また、そのために、私たちの生活もたくさんの方が変わらざるを得ない状況に追い込まれた。教育も例外ではない。

コロナ禍によって顕在化したことや、これからの教育で目指さなければならないことをまとめてみた。

1. 「新自由主義」は国民を守らないということ
「新自由主義」は「民営化」「規制緩和」「自己責任」「小さな政府」「官から民へ」という言葉でよく言い表される。しかし、今回その破綻が明らかになった。

「新自由主義」とはすべてを市場の競争にゆだねる「市場原理主義」のもとで、企業のもうけを最優先にする考え方。そのため、公的な責任や雇用のルールが弱められ、社会保障は削られてきた。

○イギリスのサッチャー元首相が、「社会などというものはない。あるのは家族と国家だけだ。」と発言し、人々が結びつき連帯を伴う社会というものが、「福祉」に対する「依存」を生み出し、経済成長を停滞させているという認識で、富む者の自由と貧者の自己責任を説いた。

同じ考えだったジョンソン首相は、コロナに罹り、退院した際に「社会は存在する」と発言し、新自由主義の間違いを表明した。

○日本では小泉政権が「構造改革」路線を押し進め、民営化、規制緩和を本格化した。

・「市場にできることは市場にゆだねる」という考え方で、郵政事業民営化、道路関係四公団の民営化、政府による公共サービスの民営化(サービスの削減)を行った。

・世界中で水道の民営化が進んだ。しかし、民営化したどの国も破綻し、再公営化している状況。そんな中、日本ではこれから水道の民営化が進められようとしている。

・タクシー免許制の緩和、ビルの容積率緩和(高層ビル建設進む)、電力小売りの自由化などの規制緩和が進められた。

【日本の状況】

医療体制の弱体化

○保健所の削減

1990年850か所 2019年472か所

○無駄を省く。緊急時に役に立たないものを削減。

- ・約440の公立・公的病院の再編統合や13万床の病床削減
- ・集中治療室の不足、資材、医師、看護師の不足

労働者の弱体化

○企業の負担を減らすために進められた「雇用の自由化」

- ・経営者は労働者を自由に解雇して人件費を削れるようになる
- ・その結果、労働者の4割が非正規労働者という状況。保障が薄く不安定な生活に。

教育環境の弱体化

○教育予算はOECD34か国中、最下位

・・・国内総生産GDPの2.9%、平均は4.2%

○国庫負担や補助金の削減、大学の独立法人化

○世界では教育費（授業料）は無償か、給付制の奨学金などがあるのが普通。

- ・大学生の自主退学の増加。コロナ禍の中でアルバイトがなくなり学費が払えない。

○教育格差が広がる。

- ・文科省は「オンライン授業をやる」というが、ハード・ソフト両面でできる環境が育っていないのが現状。地域や教育予算によって格差が生まれる。

2. 学校の果たしている役割の大きさの顕在化

○労働者を守る役割

・・・保育（食と住と時間の確保、）など

○地域の経済活動を支え・つなぐ役割

・・・給食資材 非常勤の労働者の賃金 など

3. 今の政府は、危機管理状態では無能であるということ

○行き当たりばったりで国民の声に応えない政策

- ・突然の全国一斉休校
- ・配付が遅く、不良品で使えない「アベノマスク」
- ・自粛と補償がセットになっておらず、しかも遅い「持続化給付金」
- ・さらに感染を広げる「Go Toトラベル」の前倒し など

○さらに、どさくさに紛れての暴挙

- ・「検事総長の定年延期問題」
- ・「10月入学」に「前向きに検討する」という驚くべき回答。
- ・利鞘を得ようとする「持続化給付金」「アベノマスク」の業者選定 など

4. 教育で変わらなければいけないもの

○教員が子どもとともに創意的な実践ができる教育をつくる。

学習指導要領の拘束を外し、教育課程づくりを教職員の手にもどす。

○子どものケアや学び、感染予防のために少人数教育の実現をする。

実現することによって、子どもたちへのきめ細やかな指導ができるし、教職員の増加によりいっそう教師の本来の仕事に打ち込めるようになる。

○オンラインができる環境づくりを整える。

（ハード、ソフト 指導力 など）

詰め込みでなく、オンラインでも人と人とが繋がり、わかる、楽しい授業づくり

○「主権者教育」を重視する。

政治と生活のかかわりを学び、自分たちの暮らしを守るための政治を行わせる力（理解し、表現し行動する力）を身につけさせることが必要である。

そんな中で、よかったこと

○国民が政治に目を向け、声をあげるようになったこと（芸能人たちも）

- ・「#検察庁法改正案に抗議します」の運動により、廃案になる。
- ・一人一人に10万円の特別定額給付金に変更される。
- ・2度目のアベノマスクの配付が希望制になる。 など

○多くの市民の声で「新型コロナから県民のいのちと暮らしを守るやまがた共同アクション」などの市民団体が誕生し、活動をはじめたこと。



< 特集 >



コロナと子どもたち

コロナ禍での子どもたち (中学校)

近野 享子 (高島中学校)

置賜地区でもコロナの感染者が確認され、3月末日から再びの休校、期日が二転三転した入学式(4月26日)、5月11日からの分散登校を経て、通常日課がスタートしたのは6月15日でした。検温・マスク・手洗い・3密を避ける授業・消毒・給食・清掃……、感染防止対策に気を配りながらの1学期でした。

生徒たちにとってもたいへんなことを強いられる1学期でした。そんな生徒たちに寄り添う手立てとしたのは生徒たちの作文です。学級・部活・授業の中で書いてくれた生徒たちの思いを紹介します。

コロナ禍による長期休業中・分散登校の間、

どんなことを考えたか

今年はコロナの影響で勉強が遅れてしまったし、学校も休みになって友達とも会えませんでした。休みの間は学校がないからといって、つい勉強しない日が続いてしまって、一年生の頃やり残した勉強も全然分からなくなってしまいました。けど、親に「この休みがチャンスだよ。」と言われて家でも勉強したし、一年生の勉強をワークや教科書を見返したりスマホのアプリを使ったりして復習していました。なので、私は勉強のことはあまり心配していなくて、コロナにかかってしまった人やコロナで死んでしまった人をととても悲しく思ったし、やっぱり一人一人気を抜くとこんなことになってしまうのだと改めて思いました。テレビの画面越しでしか見られなかった人だけ、できることなら死なないでほしかったし、大切な命が無駄になってしまったという悲しい気持ちでしかな

かったです。そして、それに関わった、もしくは関わっているたくさんの職業の方々に、とても感謝しています。私たちはまだ子供で、外にも出られないし、何もできませんでした。情報だけ知って、何もできなくて、コロナで死んでしまった方々に何もしてあげられませんでした。本当に心が痛いし、今もコロナで苦しんでいる人はたくさんいます。だから、もうこれ以上、感染者が出てほしくないと思っています。最初は自分の県は大丈夫かと思っていたけど、全然そんなことなく、今回は改めてコロナがどれだけ怖い存在か知ることができました。今、自分がやるべきことは何なのか、考える時間を与えられたと思っています。

(6/2 中2 ちな)

最後の部活動について、

大会中止の話聞いて思ったこと

正直、この2年間頑張って来たのに、最後に結果を残せないのは悔しいと思った。部長として、いろんな場面で人一倍頑張って来たつもりなので、良い結果で終わりたかったなと思った。指導して下さった先生方やコーチの方に申し訳なく感じた。大会がなくなったのは残念だけど、1・2年生が目標を達成してくれると期待しているので頑張ってほしい。大会がなくても引退となるまで今まで通り全力で頑張っていきたい。部長としての役割を最後まで果たしたい。指導して下さった方への感謝の気持ちを忘れず少しでもいい形で終われるようにしたい。

(6/9 中3 女子バド部長)

短歌を作ってみよう

(7/16 中2 国語の授業から)

題材は自由でしたが、コロナ禍について詠んだ作品がいくつもあり、その中から、

〇うばわれた卒業間近の二週間

「戻れるならば」と嘆く姉達 (あやな)

- 窓の外春を感じた休校中
クラス替えの期待と不安 (かな)
- ステイホーム一つの菌で苦生活
みんなでこの菌ぶったおせ (りゅうあ)
- 自粛中別れを交わすこともなく
終わってしまった最後の大会 (けいた)
- 全員で吹くはずだった課題曲
一音入魂想いを込めて (さくら)
- 休校(やすみ)明け「久しぶりだね」友達と
マスク越しでも楽しい会話 (りこ)
- 頑張っていてコロナウィルス乗り越えて
皆と会って笑顔のあいさつ (まさき)
- マスクして消毒もして完璧に
絶対負けないコロナウィルス (ひなた)

生徒たちはコロナに対する不安や、思うようにいかないままに過ぎていく中学校生活に対する焦りや悔しさ、それでも友達と会えた喜びなどを素直に表現しています。特に3年生の作文(部活)からは他にも顧問や後輩を思いやる表現が多々見られ、部活動としての一番の醍醐味を味わわせてあげることができず(コロナによって大事な成長の機会を奪われたわけですが、)こちらこそ申し訳なく思った幸いです。

人と人がつながり、学び育つ場としての学校を再認識し、これからも感染防止対策に努めながら生徒たちの成長を支えていきたいと思えます。



学童保育の子どもたち

山川 貴子(山形)

臨時休校が続く4月の初め、「スクール支援員は学童保育の支援に入ること」と話があり(あくまでも希望制ですが、と断りがありました)、分散登校が始まるまで学童保育に通いました。

行ってみると、リモートワークにならない保護者の子どもたちでしっかり“3密”でした。でも、ここが子どもたちの受け皿になってくれているわ

けで、学童の先生方の大変さを初めて思い知りました。

子どもたちは、学校から配られたプリントに従って自習をしていました。少しでも自習が進むようにと担任の先生の工夫のこもったプリントでしたが、取り組む子どもたちは全体にもやっとした姿に見えました。(密にならないように、教え合いも不可でした。)

- ・「新年度になり、気持ちもリセット」という感覚
 - ・自分の担任の先生がいる教室で勉強すること
 - ・同学年や異学年の友だちと学んだりしゃべったりすること
 - ・休み時間に思い切り体を動かして遊ぶこと
- など、今まで当たり前だったものを突然得られなくなった子どもたちの、気持ちの表れだったと思います。

「コロナ休で救われている不登校の子どももいる」と一方で聞きながら、学校の良さを改めて考えています。子どもたちが「学校は楽しいよ」「学校も楽しいよ」と言ってくれるような支援を目指して、がんばりたいと思っています。



オンライン空間に 仲間は生まれない

県民教連事務局長 東海林 仁

COVID19感染症の蔓延によって人と人が対面する機会が減少した。一方でオンラインによるコミュニケーションが増えている。

2月末の緊急事態宣言以後、休校を余儀なくされた学校現場では年度をまたいで苦悩が続いている。臨時休業中の家庭学習支援では本県でも様々な取り組みが報告された。

私の勤務校では、3月に履修できなかった単元の学習プリントの配付に始まり、新年度教科書の配付後には学校ホームページから教科書やドリル等を用いた課題の告知、技能教科や外国語も含めた学習動画の配信(双方向ではない)などを実施した。

学校が再開した5月下旬、対面授業ができるようになったことに安堵した教員が多かったと思う。

この間マスコミは、オンライン授業の広がりを盛んに報道していたが、実際はごく少数の学校の試みをピックアップしたものに過ぎなかった。逆にオンライン授業を可能とする環境には無いという義務制学校の実態が浮き彫りになった。高校もまた似たような状況だろうと思う。

感染拡大の第二波、第三波に備えるということで政府・文科省による「GIGAスクール構想」の前倒しが決まり、今年度末にかけてハード面では一定の利用環境が整いそうだ。

しかし、しかしである。子どもはなぜ学校に集うのかということなのだ。それは、仲間と一緒に学ぶためではないのか。学校は単なる知識の伝授伝達場ではない。

学びの本質は教師や仲間が「課題」をどう解釈しているかをそれぞれの教室で対話を通じて自分の頭で考えることにある。自他がそれぞれの思惑でものを言う中で何を酌み取って自分の考えや意見としていくか、というリアルな感覚。こうして学んでいくことが真の知識として身に付いていく。

週刊「東洋経済」誌の特集記事「コロナ時代の新教養」に京都大学総長の山極寿一氏のインタビュー記事が掲載されていた。なかなか興味深く面白い内容であった。氏は京大霊長類研究所を経て京大大学院理学研究科教授となり、その後第26代京大総長に就任された。氏は次のように語っている。

「時間」と「空間」の2つを相手に委ねること、顔を突き合わせ、時間をかけて話すことで、信頼関係が形成されていく。こうしてつくられたネットワークを「人的社会資本」と呼んでいる。人が社会生活を送る上で必要不可欠な人的ネットワークのことだ。一人では解決できない困ったことが起きたとき、頼ることのできる存在のことだ。

このことを学んだきっかけがゴリラと一緒に生活したことだったと山極氏は語っている。(1981年、アフリカのルワンダ共和国にてマウンテンゴリラの生態調査を実施)

ゴリラは仲間の顔が常に見える10頭前後の群れで暮らしている。顔を見つめ合い、しぐさや表情からお互いの感情や意図を的確に読み取る。ゴリラには仲間との社会関係以外に頼る社会資本は無く、これは人間にとっても始原的なものである

と言える。人間も本来、10人~15人の集団が最もまとまりのよいサイズで、ゴリラ同様、日常的に顔を合わせることで信頼関係を形成していく。

文科省は8月19日、今後の初等中等教育のあり方について議論している中教審特別部会の「中間まとめ(骨子案)」を公表した。COVID19感染拡大を踏まえ、少人数学級を可能とするための指導体制や施設整備を図ることが盛り込まれた。今後の議論を経て今年度中に文科相へ答申する予定とのこと。

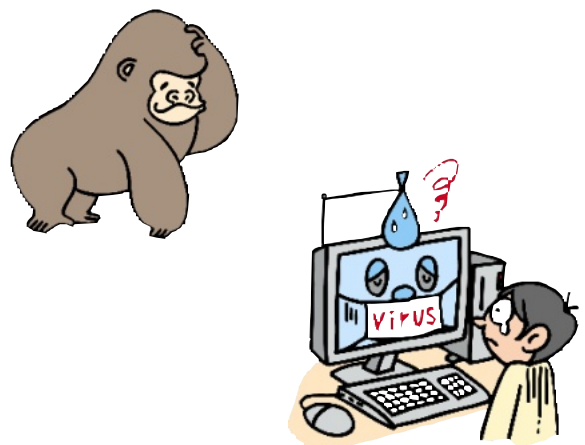
現状の40人学級が仮に半分の20人を上限として編成されたのなら、山極氏の言う「最もまとまりのよいサイズ」に近づく。ウィズコロナ時代への対応に留まらず、「時間と空間の共有」が図りやすくなり、信頼感を一層増す教室となることが期待できる。

目先の利便性や有効性だけで、オンライン化を急ぎ、一方では、たった64平米の教室に40人まで押し込めておくようなことでは教育の本質から離れていくことになる。

人間は機械にはならない。人間は社会を形成していく上で、移動して集まるということを繰り返してきた。集まって、一緒に食事をし、将来を語り合い、時にゴシップ等を語ることで関係性を確かめ合い、絆をつくってきた。

感染症が蔓延している時は社会的距離はとる。もちろん、物理的に離すのではなく、少人数学級の実現によって可能とするのが一番だ。

学校は人間社会を体験する場であり、教師と子どもとの、また、子ども同士との働きかけの機会を得る場なのだ。だからこそ、真に生きる力を育むことができる。学校や教室はそのために存在するものなのだ。



実践してみよう！

コロナにまけない、サイレント集団遊び

山形生研 設 楽 隆 雄

コロナ感染症でこれまでのような「3密」になる『楽しい集団遊び』ができません。

でも、工夫すれば、楽しくて、しかも、班の力を高めながら、親密になれる集団遊びができます。

【留意点と具体的な進め方】

【とっても大事なこと】

- ◆教師が先頭に立って明るく、さわやかに引っ張ること。
- ◆てきばき進めること。
- ◆評価の声を大切にすること。



1. はじめに遊びの条件づくりをします。

T1「皆さん、マスクをつけて、小さな声でやれますか？ 守れるなら、やりますよ。どうですか？（3回くらい失敗してもよいことにしてもいいかもしれません。）」

T2「できなくなったら、今日はそこで終わりにします。でも、失敗した人が出たらどうしますか？」
「そうですね。ドンマイ！今度気をつけよう。」とってください。だって、みんなだって思わず声を出してしまうことがあるでしょう。みんなおんなじです。」 など

2. 必ず評価の声がけをします。これがとても大切です。

- ・評価は、「教師の教育や指導に対しての姿勢や考え」を子どもたちに伝える重要な場面です。
- ・また、自己肯定感を高めたり、仲間への信頼関係を育んだり、明日への希望を持たせたりすることができます。
- ・プラス思考でさわやかに、笑顔で、はきはきと声をかけると信頼関係が高まります。

【例えば、三密のルールが・・・】

- ・**守られたら**、子どもたちをたくさん褒めます。そして、明日もやろうね、と希望をもたせます。
例 「すごい！こんなに気持ちがあたままっている学級ははじめてだ。明日もやろうね。」などと。
- ・**守れなかったら**、さわやかに中止します。教師が冷たくすると、子どもたちも冷たくなってしまいます。そして、失敗した仲間を責めてしまいます。むしろ励ましましょう。
例 「残念だったね。でも、誰も、失敗した人を責めなかったね。すごい学級だ。」などと。

【遊びの中で】

- ・しっかり話を聞いている子や静かな声で班員を応援している子どもを褒めます。
- ・リーダーとして動いている子どもを褒めます。
- ・成長している子どもを褒めます。（前はできなかったのができた子ども） など

3. 班の意識を高めるために、班にポイントをあげましょう。

- ・班にポイントをあげることによって、班のなかに連帯感が出き、関係が深まってきます。
- ・また、個人を褒めることによって、自己肯定感が育まれます。また、仲間から称賛の声が出るようになり、子ども同士の関係がよくなります。
- ・事実をしっかりつかみ、理由を語って、ポイントを与えましょう。

- 話しの聞き方や支え合っている班を、褒めて、ポイントをあげる。
「〇班は、ドンマイ、と言って、仲間を励ましていたね。」などと
- 個人の1位も、「〇班すごいね。」と言って、班にポイントを。

1班	✿✿
2班	✿✿
3班	✿✿✿

【実 際】(いろいろ改善を加えてください。)

〈みんなで遊ぶ〉 —◆◇—◆◇—◆◇—◆◇—◆◇—

- ①集団ジャンケン ■前に出た人とジャンケンをして、チャンピオンを決める遊びです。
- ②ウルトラシュワッチ ■3つのポーズがあり、前に立った人と同じポーズをしたら負けということで座り、残った人でチャンピオンを決める遊びです。

- ①・②の配慮
- ・私は、勝ち残った子どもが5人くらいでチャンピオンとしました。それは、はじめに座った人はずっと待っていてはならなくなり、つまらないからです。
 - ・勝ち残っている子どもの多い班を褒めます。そうすると班で応援するようになります。

③すきですか、きらいですか？

- 前に出た代表(当てる子)が、みんなの質問に答え、それに反応する声から「お題」を当てる遊びです。
- 準備するもの：お題を書く用紙(黒板に書いても可。)

〈実 際〉

- ・代表を決める。(代表が前に出てみんなの方を見て椅子に座る。)
- ・教師は、画用紙に書いておいた「お題(例えば、バナナ)」を黒板に張る。
- ・「質問のある人？」と聞いて、指名された子どもが質問する。
1番はじめは「それはすきですか？ きらいですか？」と聞く。
- ・代表は適当に答える。「好きです」とか「嫌いです」と答える。
今回は、「バナナ」はみんなが好きだと思うので、「好きです」と答えたとする。
- ・子どもたちは、「オー」と言う。(当たっている時は「オー」、違っている時は「エー」と発することを指導する)この反応を見て、代表はお題を考えていくのです。
- ・「それは、食べ物ですか？」などと質問と回答を繰り返していく。
- ・4回くらい繰り返し、代表が思いついたお題を発表する。(質問は、4回とか制限しておくといよい。)
- ・終了したら、お題を見せる。



- 配慮 ○「お題」は、子どもが傷つくもの、下品なものはやめる。明るい雰囲気になるものがよい。
○はじめに、代表の子どもに廊下に出てもらって、みんなでお題を決めることもできる。

④リーダー探し

- 動きを発信するリーダーを代表(見つける子)が見つかる遊びです。

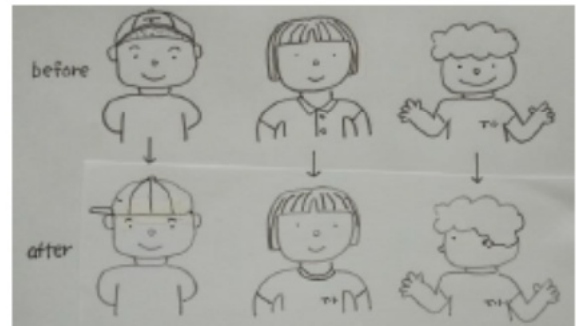
〈実 際〉

- ・隣の人と離れながら、丸くなる。
- ・代表に廊下に出てもらい、その間にリーダーを決める。
- ・代表を迎え入れてスタートする。
- ◆リズムはタンタンタンと2拍子で行う。はじめは、手拍子から...
- ・リーダーは代表にわからないように10秒くらいの間隔で新しい



- 答え合わせをします。それぞれの班の順に1つずつ発表していきます。
(班長が発表者を指示します。)(教師が黒板や大判用紙にまとめていきます。)

T 2班さんどうぞ。
 2班 Aさんの帽子が横向きになった。
 T Aさんどうですか？
 2班A 正解です。
 T そのことを見つけた班はありますか？
 S 3・5班も見つけました。
 T 表にまとめる。
 T 次に3班さんどうぞ。
 3班 Bさんの服が体育着になりました。
 T Bさんどうですか？
 2班B 正解です。
 T そのことを見つけた班はありますか？
 S 5班も見つけました。
 T 表にまとめる。
 (繰り返す)



【1班の問題のまとめ】

	帽子 ・横向き	体育着	顔 ・左向き	・・・	合計
1班	/	/	/	/	/
2班	○		○		2
3班		○	○		4
4班	○		○		3
5班	○	○	○		5

- 変わったところをたくさん見つけた班が1位、次が2位・・・となります。

- 配 慮** ○違いはあまり小さなものではなく、上半身に限定します。下半身は見えにくいので。
 ○前日に遊びを説明し、変えるところを考えさせておくといいかもしれません。
 ○家から持ってくると問題が起きるのが心配です。学校にあるもので違いをつけるようにする。

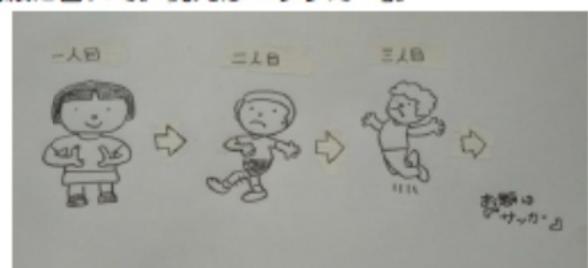
⑦ジェスチャー

- それぞれの班が、言葉を発せず動きだけで「お題」を伝えます。その「お題」を当てる遊びです。

準備するもの：A4用紙 一人に「班の数 - (ひく) 1」枚を配布します。

〈実 際〉

- 班長が、班員に自分たちが表すものを決めて伝える。用紙に書いて。例えば「サッカー」。
- 問題を出す順番を決める。「1班から」とか。
- 1班が前に出て、一人ずつ1動作を行う。次の人は前の人と違うジェスチャーをする。
- 見ていた側が解答を書く。(15秒くらい)
- 一斉に書いた用紙を上上げて提示する。
- 1班が書いてある用紙を開く。
- 正解した人数の多い班が、よい順位になる。



(班員数の違いに気をつける。班長の正解を2人分にするなど工夫する。)

- 配 慮** ○クラスの子どもが傷つかないようにする。みんなが笑えて、明るく元気になるものが多いです。

さあ、やってみましょう！ 子どもたちが、つながります。

子どもと教師、教師と親の信頼関係も高まります。

サークル 紹介

県生研 北村山サークル サークルづくりは集団づくり

植松 保信(北村山)

コーヒーのいい香り、手作りのチーズケーキなどを準備しているベテランの女性教師たち。そんな中、一人ふたりと20代の若い教師たちが会場に入ってくる。だいたい、若い教師が4~5人、ベテラン教師が4~5人ほどの10人ほどのサークルである。参加する若い教師は10数人はいるが、その都度メンバーが違い、連続しての参加は難しい現状である。それでも参加回数の多い教師が数人出てきている。

参加する若い教師たちは、ベテランの教師たちの学校に新採になった教師や同僚になった教師がほとんどである。

数年前から、ベテランの教師だけの停滞するサークルを立て直そうと、教職員組合の力も借り、県生研の学習会や民教連の学習会、教研などに、自分の学校の若い教師を一人でも誘って参加するようにしてきた。

そしてサークルでは、若い教師向けの学級づくり入門講座を連続して開催し、その後悩みなんでも相談や次回学習会の要求などを聞き出すように努力した。その要求から、国語や算数の授業づくりの講座や教材分析の学習なども行ってきた。こうして、参加する若い教師が少しずつ増え、10数人が参加するようになる。この頃になると、若い教師が別の若い教師を誘って来るといったようなことも起きてきた。

しだいに講座形式から若い教師のレポートをもとにした学習会にしていく。口頭のレポートでもいい、A4用紙1枚のレポートならなおいいとした。学習会ではなるべく若い教師の意見を聞き、子どもの見方などの子ども観や今後の実践の方向性などをベテラン教師が話すようにした。

レポーターはここで学んだことをもとにさらに実践を積み重ね、次のサークルにつづきのレポートを出すようなことをねらった。なかなかそうはならなかったが、新採3年目のI先生の「発達しようがいの子どもと学級づくり」の実践が山形で開かれた東北地区学校の全体分析に選ばれて分析されるまでになった。

私たちベテランが運営してきたサークルを、同期の若い教師を何人が誘ってくれた新採2年目のY先生を中心に何人かの若い教師が運営するサークルにしようと考えた。

次のサークルをY先生たちに考えてもらい、Y先生がレポーターを引き受け開くことができた。不登校の子をめぐる実践だったが、不登校の子やその保護者との担任のかかわり方、不登校の子と学級の子どもたちとのかかわり方などを、若い教師が自分自身の体験や自分の子ども観などをもとに活発に討論することができた。

若い教師たちの、いつになく生き生きとした討論になった。ベテランの発言は討論をさらに深めるための問いかけなど、最小限度で済んだ。

このことから学習は、お膳立てされたものに受け身的に参加するものから、運営主体になってその学習を創り出すものになってこそ、本物の学習になるのだと改めて考えさせられた。

しかしまだまだ発展途上である。サークルづくりも集団づくりだと思いつくづいている。これからも、若い教師たちの自立したサークルになるよう、微力ながら力を尽くしたいと思っている。



～ 随想 ～

沖縄で暮らす
50日間



屈辱から誇りへ

<座り込むことのない日が来ることを>

早坂 久佳（山形）

昨日辺野古に行ってきました。2回座り込みをし、強制的に機動隊3人から腕と足をつかまれ移動させられました。1回目は何とも言えない屈辱を覚えました。でも県民投票の辺野古埋め立て反対72%にもなる民意を無視した日本政府の暴挙に体で抗議しているんだと2回目は誇りが生まれ、屈辱感が薄まりました。



一緒に連れて行った家の犬も座り込みをしました。犬代表と言うことで・・・そんなことないのですが、この日参加した方ずっと闘っている人達の心を和ませてくれたようです。

以前は沖縄平和運動センターの山城博治さんというリーダーがマイクを握り、参加者の紹介や座り込みの意義など熱く語り、盛り上げていました。執行妨害の罪で捕まったり、病気で入院したりするも戻ってきて、辺野古座り込みの顔になっていたのですが姿が見えず、高江のヘリ基地反対闘争の指揮を執り、けが人を出したことで自ら退いたのかもしれませんが。

今は歌を中心にいろんな方がマイクをバトンのようにして繋いでいました。歌は替え歌になっていて、今の状況を歌詞に込めアカペラで紹介し一部みんなで声を合わせます。そして、この日3月

4日は三線の日でした。みんなで踊ることになって機動隊は気を利かし正面から脇に下がってくれました。隊長の配慮のようですが、闘いの中で見せたそれぞれの立場を通すだけでない人間的な意思疎通がありました。三線に寄せる沖縄県民同士でないといけないことだったかもしれません。

それにしても、民意をことごとく無視し沖縄県民同士を対立させ、多額の税金をつぎ込んで市民を排除する政府自民党安倍政権に屈することは出来ません。基地撤去本土並みを訴え続けた沖縄復帰の時に、基地を残すことで勝手に合意した自民党政府が、今また普天間基地の代わりどころか港まで付設する新基地を用意するというのですから、歴史的経過も含め後退になることを私たち日本国民は知るべきです。

子ども達に何を残すのか、沖縄の人達の思いや願いをまたしても踏みこむ、まやかしの自民党による政治です。



この日は午後雨になると予報されていましたが、ずっと曇りで終わりました。そして今日は冷たい雨が降り続いています。今日も3回座り込みしているのだと思うと、ちむぐりさと言う感情が沸いてきて、その言葉の意味が今まで以上にわかるような気がします。それも自分ではない、これからの沖縄の人達を思い、年老いた者達が屈辱的な人間への強制撤去を毎日のように受けている現実の中で。

埋め立てをやめれば、そして基地を断念すれば、座り込むことがないので・・・。



アメリカンビレッジ（早坂 画）